
■■■◆ KOHKEN Chemical News Liner

■■◆

(株)工業市場研究所

■◆

<http://www.kohken-net.co.jp>

2018年5月17日

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

HEADLINE

◆経営:三菱ケミカルが日本合成化学工業の合併に関する検討を開始
(5月11日)

◆食品原料:カネカがスペイン乳酸菌会社への出資および製造販売ライセンス
契約を締結(5月11日)

◆ガラス:日本板硝子が太陽光パネル用ガラスの製造設備増設を決定
(5月11日)

◆エラストマー:デンカが新規高機能エラストマー「Evolmer」を上市
(5月10日)

◆食品原料:ダイセルとダイセルファインケムがサプリメント向け添加剤の販
売を開始(5月9日)

◆溶剤:昭和電工が酢酸ノルマルプロピルの生産能力増強完了を発表
(5月8日)

◆高機能材料:DICが米・バイオベンチャー企業と先端高機能材料に関する共
同開発契約を締結(5月8日)

◆発泡体:東レが滋賀事業場でポリオレフィン発泡体を増産
(5月7日)

◆水素関連:旭化成がヨーロッパにおける「グリーン水素」実証プロジェクト
を本格始動(5月7日)

◆価格改定

・積水化学工業が塩化ビニル管および関連製品を6月21日出荷分より値上げ
・日本軽金属がアルミニウム板製品を7月1日出荷分より値上げ

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

◆海外市場調査のWebサイト『グローバルマーティンラボ』もご覧ください。

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

WEEKLY NEWS

◆経営:三菱ケミカルが日本合成化学工業の合併に関する検討を開始
(5月11日)

三菱ケミカルは、連結子会社である日本合成化学工業を、2019年4月を目処に合併する前提で、詳細な検討に入ることを発表した。

日本合成化学は、PVOH「ゴーセノール」、液晶表示用 PVOH フィルム「OPL フィルム」、EVOH「ソアノール」などの合成樹脂製品を中心に事業を展開しており、三菱ケミカルは、2016年11月に日本合成化学を完全子会社化している。

今後、詳細検討を進め、年内に合併の実施について結論を出す予定としている。

◆食品原料:カネカがスペイン乳酸菌会社への出資および製造販売ライセンス契約を締結(5月11日)

カネカは、スペインの乳酸菌会社である AB-Biotics SA(以下 ABB 社)の一部株式(34.8%)を取得し、また、ABB 社製品の北米および日本での独占的製造販売に関するライセンス契約を3月末に締結したと発表した。

ABB 社は高い研究開発力を強みとして、ヒト本来が持つ健康な腸内から抽出されたプロバイオティクスの独自菌株を550株以上保有している。

カネカでは今後 ABB 社の乳酸菌製品と自社の機能性食品素材、乳製品を組み合わせた製品を、高成長が期待される市場へ順次投入し、5年後に当事業で売上高100億円を目指すとしている。

◆ガラス:日本板硝子が太陽光パネル用ガラスの製造設備増設を決定

(5月11日)

日本板硝子(以下「NSG」)は、太陽光パネル用の透明導電膜(TCO: transparent conductive oxide)ガラスの増産に向け、総額約380億円の新規設備投資を決定したことを発表した。

2019年度から2021年度にかけて、現在休止中のベトナムのフロートラインを改修・再稼働するとともに、米国で工場を増設する。

NSGのTCOガラスは、成形中あるいは成形直後の高温のガラス表面に導電膜を形成するオンラインコーティングによって製造され、耐久性の高い膜形成により、幅広い用途に使用できる。オンラインコーティングには大量生産に適し、コスト面で優位などの特長があるとしている。

今回の投資決定は、薄膜太陽光パネルの世界的メーカーである米国ファーストソーラー社との長期供給契約によるもので、NSGはTCOガラスの増産により、VA(高付加価値)製品へのシフトを加速していくとしている。

◆エラストマー:デンカが新規高機能エラストマー「Evolmer」を上市

(5月10日)

デンカは、デンカクロロプレン、デンカERに次ぐ、第三の機能性エラストマーである「Evolmer(エボルマー)」を開発し、上市すると発表した。

「Evolmer」は、自社が有するエラストマー技術と高機能スチレン系樹脂開発で生まれた精密重合技術の融合によって開発した製品であり、機械的強度や耐油性、耐摩耗性に優れ、更には低温下での圧縮永久歪が小さく、動的環境下での耐屈曲疲労性に優れる等、従来のエラストマーには無い物性バランスを有している。

自動車、建機分野、電気・電子分野のシール材や繊維処理材等の市場において、上位高機能エラストマーである水素化ニトリルゴム等の代替も含め、現在、複数の顧客にサンプル評価を進めている。

本製品の生産拠点は青海工場(新潟県)で、2018年10月にラインを設置、2019年1月に上市し、2022年には年間1,500トン規模の販売計画としている。

◆食品原料:ダイセルとダイセルファインケムがサプリメント向け添加剤の販売を開始(5月9日)

ダイセルとダイセルファインケムは、共同開発したサプリメント向け添加剤「モイストカーム」の販売を2018年4月より開始したことを発表した。

「モイストカーム」は食品用成分を配合したプレミックス型賦形剤で、水に触れるとゲル状に保水する特徴がある。サプリメント成分と混合させて使うことで、粉立ちやパサつきが少なく新しい食感のある顆粒剤や、飲み込む際に異物感を

覚えにくいタブレット剤の製造が可能である。

両社はこれまで、水なしでも服用可能な速崩壊性賦形剤「グランフィラーD」(医薬品用)や「スウェルウィック」(サプリメント用)を提供してきた。今回「モイストカーム」をラインアップに加え、医薬品やサプリメント分野でさらに幅広く飲みやすさの提案をしていくとしている。

◆溶剤:昭和電工が酢酸ノルマルプロピルの生産能力増強完了を発表
(5月8日)

昭和電工は、特殊グラビア印刷用インキの溶剤として使用される酢酸ノルマルプロピル(以下、NPAC)の生産能力の増強が完了したことを発表した。

同社は2009年末に大分コンビナート内に年産13,000tの生産設備を建設、2010年2月より本格的な生産を開始、販売してきた。2016年には設備のボトルネック解消により、16,000tまで生産能力を引き上げた。今回、大分コンビナートでの定期修理にあわせて設備改造を実施し、年産18,200tまで生産能力を増強している。

NPACは、主として食品包装用の特殊グラビア印刷用インキ向けに使用される溶剤である。これまでインキ向けの溶剤としてはトルエンやMEK(メチル・エチル・ケトン)が多く使用されていたが、揮発性有機化合物の排出規制強化に伴い、それらに代わる酢酸エステル系の溶剤として、安全性が高く、また代替使用が容易なNPACの需要が高まっている。近年ではNPACの国内需要は年率10%超で拡大しており、今後も市場の拡大にあわせて、製品の安定供給体制を維持強化していくとしている。

◆高機能材料:DICが米・バイオベンチャー企業と先端高機能材料に関する共同開発契約を締結(5月8日)

DICは、革新的高機能材料を開発するバイオベンチャー企業のチェッカーズポット社と新たな高性能ポリオールの開発に向けて共同開発契約を締結したと発表した。

DICは、チェッカーズポット社が有する、分子レベルから最終製品にわたる素材を設計し、複数の技術分野にまたがり素材革新を実現する基盤技術を活用していく予定である。

今回のパートナーシップは、接着剤やコーティング剤、印刷インキ、潤滑油分野における新たなまたは改良された製品および処方設計の創造に重点を置いており、開発等は、同社の研究室およびカリフォルニア州バークレーにある本社にて進めていく予定としている。

◆発泡体：東レが滋賀事業場でポリオレフィン発泡体を増産（5月7日）

東レは、滋賀事業場のポリオレフィン発泡体「トーレペフ」の生産能力を年産約2,000t増設することを発表した。2019年10月の稼働開始を目指すとしている。

「トーレペフ」は軽量、断熱性、緩衝性、成形性、非吸水性等の特長を有しており、電子機器部品、家電製品の断熱材、住宅・土木用のクッション材など様々な用途に採用されている。近年、自動車内装用途が急激に拡大しており、特に自動車大国である米国の自動車メーカーにおいて、ドアパネルやインストルメントパネル材料などのソフトタッチ内装材用としての採用が増加している。

また、自動車内装の高級化・ソフト化のトレンドは、日本・中国市場にも展開され、今後中国における自動車生産台数の増加が見込まれるSUV系車種では、内装の高級化が進み、発泡体搭載車種の増加が見込まれる。

今回の生産能力増強は、アジア圏での自動車内装用途の需要拡大、また国内各用途の需要への対応を目的としている。今回の増設により、海外も合わせた東レグループにおけるトーレペフの年産能力は13,000トンに拡大するとしている。

◆水素関連：旭化成がヨーロッパにおける「グリーン水素」実証プロジェクトを本格始動（5月7日）

旭化成は、ヨーロッパ統括会社である旭化成ヨーロッパ（本社：ドイツ、以下「AKEU」）がドイツにある水素関連技術開発拠点「h2herten」にて、風力模擬電源を使ってアルカリ水から水素を生成する「グリーン水素」の実証プロジェクトを開始したと発表した。

本プロジェクトは、ヨーロッパにおいて、再生可能エネルギー源から供給される電力を使用して「グリーン水素」を製造する。NRW.INVESTの協力のもと、h2hertenと共同で行い、大規模な「グリーン水素」製造のためのアルカリ水電解システムの開発に寄与するものである。

また、AKEUは、2017年11月に、「ALIGN-CCUSプロジェクト」に参加することを発表している。旭化成のアルカリ水電解システムは、CO₂を再利用する手法の1つであり、CO₂排出量を削減できる。AKEUは、ヨーロッパのパートナー企業・機関と協力してCO₂の再利用、排出量の削減に貢献していくとしている。

◆価格改定

・積水化学工業が塩化ビニル管および関連製品を6月21日出荷分より値上げ
値上幅は、塩化ビニル管全般：15%以上、塩ビ継手・マス：10%以上
その他塩ビ関連製品：10%以上

- ポリエチレン管および継手他：15%以上
- ・日本軽金属がアルミニウム板製品を7月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、同品ロールマージン価格(加工費)の10%相当



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

- ◆メールの設定により、読み難くなることがございます。ご容赦ください。
- ◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ h-ikeda@kohken-net.co.jp

